

北海道大学に着任して

北海道大学 大学院地球環境科学研究院
地球圏科学部門 大気海洋物理学分野
准教授 [吉森正和](#)



今年の4月に地球圏科学専攻に着任しました。北海道大学は学会に参加する際に何度か訪れたことがありましたが、その度にキャンパスの美しさに魅了されました。今は毎日、木々の間を通して出勤できることに喜びを感じています。一方で、外部から見てきた北海道大学の魅力は、卒業生の活躍、存在感にありました。卒業生が自分たちの受けた教育に優越感を持ち、それを活かして躍動している姿に、それ以上の説明は必要ないでしょう。他分野から来た学生も含めて、基礎をしっかりと踏み固めながら、自然な流れで最先端に飛び込んでいく、そうした良い伝統があるのではないのでしょうか。私もその一助となり、さらに発展させていければと思います。私自身、日本で修士課程を終えた後に専門を変えて気候研究の分野に入り、カナダで博士号を取得しました。学生達が新しい知識を恐れず、「考える力」を伸ばして柔軟に前へ進んで行けるようにサポートしていきたいと思っています。

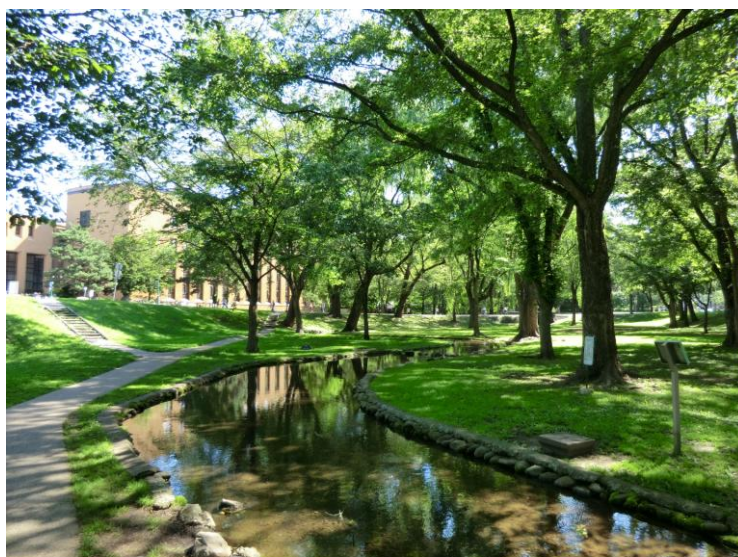
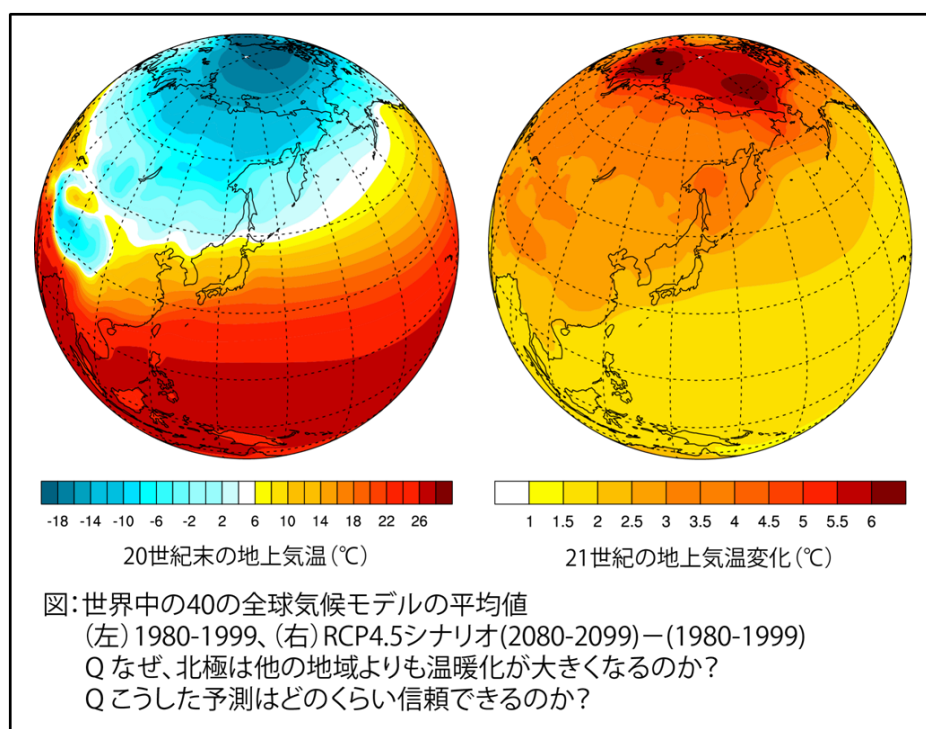


写真:6月の美しい北海道大学のキャンパス

もともと地球環境問題の自然科学的側面に興味を持ちこの分野に入ったこともあり、「地球温暖化」というキーワードを常に意識して研究してきました。学生の頃は、1万年以上昔の氷期・間氷期サイクルを研究していましたが、その後こうした過去の気候が

ら得られる情報をいかに将来の気候予測に活かすかというテーマに重心が移っていき
ました。それと並行して、二酸化炭素の増加によって地球平均気温は何度高くなるか、
極域の氷床に起因して将来の海面水位はどのくらい上昇するか、北極域は他地域に比
べて温暖化が顕著であるがその理由は何か、などといった疑問にも答えるべく研究の幅を
広げてきました。今後も、気候変動をテーマに、地球全体をカバーする数値気候モデル
を主な道具として、気候がどのように形成され、変化していくのかを追及していきたい
と思います。



北海道大学は専門分野の研究者の数とレベルという点で、研究の場としても非常に魅
力的です。複雑な要素が絡み合っている気候システムを理解するためには、多くの専門
家が協力しあって謎を解いていくことが必要です。そのような研究生生活を送れること
を楽しみにしています。自然科学者として、地球環境が変動するメカニズムの理解という
科学的真理の追及と、地球規模の環境問題に対する正しい知見の提供という社会的役割
を果たすことを究極の目標として、教育と研究に邁進していきたいと思ひます。